

# 万行寺報

Mangyoji Jihō

発行  
浄土真宗本願寺派 万行寺  
住職 山崎信充  
〒385-0003  
長野県佐久市下平尾461-1  
電話 0267-67-2460

2024(令和6)年

仏暦2567年

1月号

(第148号)

実践運動 総合テーマ『そとつながる ホツがつたわる～結ぶ絆から、広がるご縁へ～』



## 住職 法話

### 「ご利益」は、まず「信心」から

正信心仏偈に学ぶ  
能発一念喜愛心  
不断煩惱得涅槃  
よく一念喜愛の心を発すれば、煩惱を断せずして涅槃を得るなり。

「現代語訳」  
信をおこして、阿弥陀仏の救いを喜ぶ人は、自ら煩惱を断ち切らないまま、浄土でさとりを得ることが出来る。

阿弥陀仏の救いを疑うことなく喜ぶ心を「信心」といいます。ここからは、その信心を得たらどのような利益を恵まれるかということが五つ説かれていきます。  
ここで「利益」という仏教語が出てきます。あちらこちらの神社仏閣にお参りをして、様々な願い事をして「ご利益」を得られると親しく使われている言葉です。しかし、本来の「利益」は、何かしら条件付きで恵まれるものであ

ることはあまり知られていません。「麦を作らないで麦わらだけを求めているよう」という喩え話もあるように、いわゆる家内安全、商売繁盛、恋愛成就といった一方的な願い事を神仏にして、かなえて欲しいと「ご利益」を求めただけでは何の意味もないということなのです。

ここから浄土真宗の「ご利益」が示されますが、「能発一念喜愛心」と始まりますように、信をおこして、阿弥陀仏の救いを喜ぶ「信心」であつてこそ「ご利益」が恵まれるということなのです。

まず一つ目が、「不断得証の益」です。自ら煩惱を断ち切れないまま、さとりを得ることが出来る「ご利益」です。除夜の鐘の百八つは煩惱の数といわれ、煩惱を打ち消すという意味が込められていると聞いたことがあるでしょう。お釈迦さまもされたように、仏道では煩惱を断ち切らないとさとりは得られません。では、どうして「不断得証

の益」と言われるのでしょうか。人間の力で煩惱を断ち切つてさとりを得ることが出来た人は、この世でお釈迦さまのみです。人間にとって煩惱を断ち切ることは、それほど大変なことで、阿弥陀仏はそれを哀れみ本願をおこされたのです。その本願の救いを受け入れ「信心」得られた人には、煩惱そのまま救われるという「ご利益」を頂けるといふことです。仏法を通して、阿弥陀仏のお救いを疑うことなく心から喜ぶことは出来ません。しかし、どう足掻いても出来ないことは、阿弥陀さまが本願をおこしてくださったから大丈夫なのです。このように、以後、浄土真宗の「ご利益」が示されていきます。あらためて、取りこぼすことのない救いということとが阿弥陀仏の本願から味わえるところなのです。それが、次の「平等一味の益」という「ご利益」につながります。

# 浄土真宗 新 仏事のイロハ

## 四、法要・行事

— 仏縁を深めよう —

### 「読経の意味」

「おやじの分のお経も頼みます」?

亡母の七回忌ということでお参りした時のことです。お勤めを始める直前になって、施主さんから「おやじの供養もしたいので、おやじの分のお経も上げてやってください」と言われました。

「“おやじの分”と言ったって、誰それ用のお経というのがあるわけはいし、お母さんやお父さんのために上げるのではありませんよ」と言ったのですが、その時は、なかなか理解してもらえませんでした。

また、こんなことを言う人もいます。  
「父の命日には、毎月ご院さん（住職）にお参りしても

らっています。祖父の命日には参ってもらっています。お祖父ちゃん、気を悪くしていないでしょうか」と。どうやら、これらの方がたは「お経は亡き人のために、聞かせて上げるもの」と思っているようです。故人に対して読経の功德をさし向けるという認識です。追善供養、あるいは追善回向と言われるものです。

しかし、浄土真宗で行う読経は、故人への追善の意味ではありません。阿弥陀さまの徳を讃え（仏徳讃嘆）、そ



法事でよくお勤めされるのは「浄土三部経」です。これは何も一つのお経なのではなく、「仏説無量寿経」、「仏説観無量寿経」、「仏説阿弥陀経」を合わせた総称で、浄土真宗の根幹となるもつとも大切なお経（正依の経典）です。いずれも、お釈迦さまが「阿弥陀さまの間違いのない念仏を信じて救われてくれ」と、私たち凡夫にお説きくださったものであり、「正信偈」など他のお聖教（広義のお経）も、阿弥陀さまの救いを讃えているものです。

したがって、「お経を上げる」というのは、お参りしている私たち自身がお念仏の教えを聞くことであり、仏さまの徳を讃えて、ご恩に感謝することなのです。その中で、阿弥陀さまに救われ、仏となられたそれぞれの大事な亡き人に出遇ってください。

「浄土真宗 新 仏事のイロハ」末本弘然著／本願寺出版社刊より

### 年忌法要表

1 周忌	2023 (令和 5) 年	23 回忌	2002 (平成14) 年
3 回忌	2022 (令和 4) 年	25 回忌	2000 (平成12) 年
7 回忌	2018 (平成30) 年	27 回忌	1998 (平成10) 年
13 回忌	2012 (平成24) 年	33 回忌	1992 (平成 4) 年
17 回忌	2008 (平成20) 年	50 回忌	1975 (昭和50) 年

### 編集後記

年があらたまり、本年もよろしくお願い致します。◆年の始まりに、能登半島地震という大災害が起こりました。寺院の被害も甚大で、特に北陸は、浄土真宗のお寺が多い地域でもあります。お見舞い申し上げます。私も出来ることをしていきたいです。

